



ご意見は次のeメールアドレスへ
公式HP & ブログは次のURLへ

sky@nagahata.jp
http://nagahata.jp

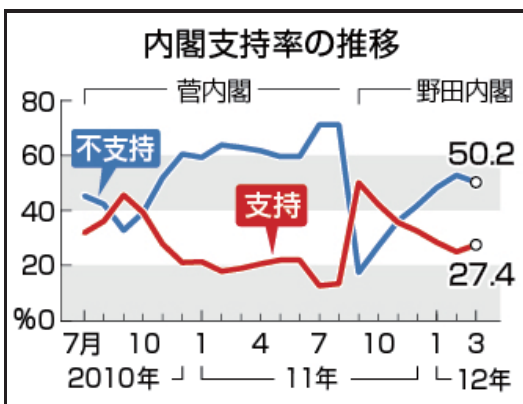
phone : 072-878-3205
fax : 072-877-1194

こんにちは、市政報告です!

1月20日、本市の市長が変わりました。私の所属する会派「畷市民クラブ」の3名は、議会において与党や野党と言う考え方ではなく、各議案ごとに長期的な視野も含め真剣に議論し、常に是々非々で臨みたいと考えています。

「衆議院選、市長選」を終えて

私は、45才で市長選挙に初めて挑戦しましたが敗北。その後、46才で市議になるも任期途中の49才で再度市長選挙に挑戦し、またしても敗れました。そして、2011年4月の統一地方選挙で再び市議選挙に挑戦したのですが、今までの無所属と違い民主党で出馬することにしました。当時は菅内閣で、3月11日に起こった東北地方太平洋沖地震の対応が悪く、国民の党に対する信頼はすで



表は時事通信社より

に無くなっており、上の表に示されている通り内閣支持率は最悪で、4月時点で民主党の支持率は19.2%、対する自民党の支持率は23.3% (NHK調査) でした。私の判断に、後援会、また、支持者からも落選するつもりかと強く反対されましたが、私が二期目に市議選へ出馬するには絶対に曲げられない選択だったのです。

理由は、民主党の支持率がどれだけ悪くても政権与党であり、且つ、この地域 (大阪12区) 選出の樽床前衆議院議員が要職につく可能性が高かったからです。

平成25年1月1日現在、市町村の数は1742 (指定都市の行政区の数は除く) あり、平成の大合併前にはこの倍もありました。これだけの数の市町村のほとんどは疲弊しており、どこも国に対して要望書を提出するなど自治体運営に苦

労しています。しかし、どれだけ国へ陳情しようとも、政権与党以外の要望を聞き入れて頂く事は難しくなります。また、政権与党でも重要なポストについている衆議院議員の地域から要望を聞くのは言わずもがなです。本市も町の時代から、また、1970 (昭和45) 年7月に市制施行されてからも、国へ要望を受け入れて頂くには相当の努力が必要でした。

逆風の中、何とか二期目を当選し、昨年末に政権交代が起こるまでの約1年8ヶ月、私の議員活動は、そういう意味で国に対してが主となりました。本市の要望書も私を通してのみ国へ上げられる事になり、また、何度も東京へ行き直接官僚へ陳情をしました。

樽床前衆議院議員が党の幹事長代行 (2011年8月31日)、そして、総務大臣 (2012年10月1日) へと要職に就くにつれ、交付金の増額や、何年も国の予算がつかなかった電通大と本市とのスポーツ・レクリエーション施設の整備事業計画も動きだしました。

まだまだ、多くの陳情を国にしていますが、重要なものと言えば、国からの特別交付金に上乗せされる地域手当アップです。職員の給与にも反映されますので職員の士気も高まり、且つ、本市の財源も増えるこの地域手当は、0、3、6、10、12、15、18%とあり、近隣市で言えば大東市が10%、寝屋川市が12%、守口市と門真市が15%、生駒市が6%でありながら本市は3%なのです。せめて6%との要望をしており、人事異動のあるこの春には総務省へ再度陳情しに行く予定でした。

しかし、政権与党が民主党から自民党へ変わり、国とのパイプ役であった私の役目もここまでとなりました。今後は、四條畷市議として市民の為の活動に徹します。

本市の今後を考えますと、自民党と関係の深い方が本市の市長になられば、陳情は受け入れられずとも引き継いで頂けたのですが、新しい市長は大阪維新の会所属とのこと。府との関係は密接になるでしょう。しかし、国とのパイプについて、現時点では政権与党でない日本維新の会がするのでしょうから厳しくなるのは仕方ありません。後は、自民党所属の議員を通じて私が上げてきた国への陳情を引き継いで頂く事を願うばかりです。

「12月議会一般質問」について

昨年12月に行われた平成24年第4回定例会の一般質問において、3点の質問をしました。その内容を理事者側の答弁も含め、簡単に報告させていただきます。

『庁舎耐震化と本館から東別館への渡り廊下の設置について』
問) 庁舎本館2階の踊り場部分から東別館まで渡り廊下を将来的に作る必要があると考える。そのことにより、本館と東別館の連携が良くなるとともに、1階にかんしても、渡り廊下が雨よけになるので、市民の方の雨の日の移動に迷惑をかけずにすむと思う。庁舎耐震化の計画によると、平成25年度には実施設計を行うとのことであるが、その実施設計を行う段階において渡り廊下をつくるプランを考えの中に入れて頂きたい。そうでないと、将来渡り廊下をつける段階において、本館踊り場部分が耐震壁となってしまう場合、大変困ってしまうが。

答) 庁舎耐震化で行う補強箇所に、踊り場の壁は含まれていない。しかし、市民サービスの観点から窓口部門を主に1階に配置していること、整備の関係上、3階が対象となり、来庁される方々にメリットが低いこと及び工事費用など、総合的に勘案すると困難である。

以上の答弁に対し、踊り場の壁は耐震壁にならないのは納得した。しかし、水道庁舎と東別館は市民サービスに関係なく渡り廊下で繋いでいる点の矛盾を指摘し、また、2階部分に設置できる可能性を一級建築士の立場から説明した。

『小中一貫教育のビジョンと中間期末テストの日程について』
問) 小中一貫教育を進めた先に見えるビジョンについてどう考えているのか。

答) (学習面、生活指導面、中学校区ごとの考え方を示した後) 強固な組織体制と9年間を見通した教育カリキュラムの体系化が重要であると認識しており、今年度中には、小中一貫教育基本方針案を策定する。

問) 教育長は、元高校の校長として、どういう生徒を受け入れたかったのか。それが小中一貫教育の先に見えるものと思うが。

答) 入学生に対しては、何事にもチャレンジする意欲的な子ども、自慢できるものを持っている子ども、それに健康で元気に振舞う素直な子ども達が沢山入学してくれることを願っていた。

問) 教育予算について、学力の低いところほど予算を足してあげる考え方も必要かと思うが。

答) 今後、学力向上3カ年計画の進捗状況、また学校の取り組み、学校の要望等も踏まえ、予算配分については検討してまいりたい。

問) 中間や期末テストの日程を、本市の中学校では平日に数日かけて全教科を行うが、私の知っている私立では間に土日を含んでいる。中学生の実力がつくのは、中間や期

末テストだと考えるが、そう考えれば、中間や期末テストの間に土日を含み、前半後半の科目をしっかりと勉強させるのが良いと考えるが。

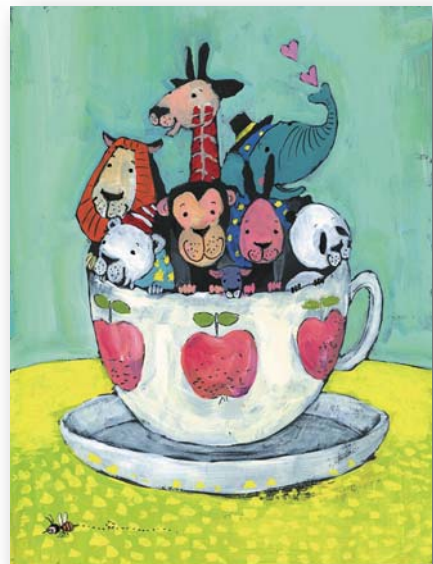
答) 議員ご提案の趣旨等については、学校へ情報提供をしていく。また、具体的な中身等についても相談していく。

『ふるさと納税を増やす方法について』

問) ふるさと納税の寄付件数は、平成20年度で25件、21年度で13件、22年度で16件、23年度で18件。市民だけで数えると常に10件前後。まず、件数を増やすにはリピーターを増やすこと、そして、新規開拓以外にない。ふるさと納税をして頂いた方へ贈るプレゼントの内容は。

答) 平成23年度から実施している項目で、市内の特産品となる煎餅、お饅頭、おかき、それと谷口氏の絵本。また、お酒、友好都市紀北町の食卓セットと乾物セットの7点。件数は、平成23年度からの累積で、お饅頭が2件、おかきが1件、谷口氏の絵本もしくはグッズが17件、お酒が3件、紀北町双方で5件となっている。

問) 私の想像していた通り、谷口氏のグッズを希望する方が少ない件数の中でも際立っている。そこでリピーターを増やす提案だが、本市の観光大使であり絵本作家の谷口智則氏に頼み、本市



のふるさと納税だけのために、例えば四條畷神社とタイアップして絵馬に毎年干支を描いて印刷したものをプレゼントするのはどうか。谷口さんの絵には多くの動物が登場するし、干支にはぴったりだと思うが。

答) ユニークなアイデアであり、寄付金の増加に効果が見込めるのではと考えるので、谷口氏が作成されるのであれば、活用を前提に検討する。

四條畷市サポート寄附金(ふるさと納税)のご協力をお願いします

ふるさとを応援したい、ふるさとへ貢献したいという気持ちを形にするため、寄附金を受け付けています。

2,000円を超える寄附について、一定の限度額まで個人住民税や所得税の軽減を受けられるふるさと納税制度が適用されます。

いただいた寄附金は、市の将来像「夢と希望が輝く活力都市 四條畷」の実現に向け、活用させていただきます。